

<白金標準、景気抑制に伴い需給の思惑を無視した反動待ち・・・>



(出所：オアシス)

7月に入り主だった経済指標は尽く悪化を示し、高止まりした金利高に伴い景気抑制の動きが示されるなど景気商品には悪影響を与えている。特に南アフリカのプラチナ鉱山であるアングロ・アメリカ・プラチナは上半期の企業収益を発表し、6月30日までの半年間で前年同期比で18%減とPGM価格の低下が要因であると述べている。また現金営業単位コストのガイダンスは、PGMオンスあたり905ドル～959ドルと示唆されるなど、割高な価格が意識されだし、また中国共産党第20期中央委員会第3回全体会議（三中全会）では、具体的な景気刺激策が打ち出されなかった事からLME市場では、銅価格の下落が強まるなど景気商品の足を引っ張る動きに結び付いている。

特に白金標準先物は、為替市場の円高の動きを受けると週末には4588円まで下値を追うなど19日の戻り高値5195円から7日間で607円の下落を行っている。また5月の高値5482円から4779円まで703円の下落に比べ今回7月は5326円から4588円まで738円に達しており、一度の下落では達成感が強まると思え、下げ止まる値動きに注意が必要と思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが下落し、シグナルも下げている。RCIでは短期が下げ止まり、長期も下げている。ただ日足が200日移動平均線まで届くなど下値抵抗を強める位置まで届いた可能性は高いと思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,530,000 円(2024 年 7 月 29 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 71,280 円(2024 年 7 月 29 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>